



ゴミは時代を語る証人

私

私たち人間は生活する上で、いろいろなものを買ったり、利用したりしています。その後、使わなくなったり、必要としなくなったりしたものを「ゴミ」として捨てています。

ゴミは昔からあり、その代表的なものとしては、貝殻を捨てたと言われる「貝塚」などがあります。

この貝塚は、昔の人がどのような暮らしをしてきたかを教えてくれる「証人」となっているのです。

さて、現在、私たちが捨てているゴミたちからは、どんな声が聞こえてくるのでしょうか。

資源を捨てるなんて、もったいない！

毎日の生活の中で出てくるゴミ。一口に「ゴミ」と言っても、その中身は多種多様です。ゴミとは一体何なのか、また現在の桂川町のゴミ事情は、どうなのかを一緒に見てみましょう。

桂川町のゴミ事情

平

成6年、飯塚市(旧穂波町・旧筑穂町)と桂川町が、共同で建設したゴミ焼却場「桂苑」(九郎丸区)で、毎日私たちが出すゴミが、大量に処理されています。

処理されているゴミの多くは可燃物といわれる燃えるゴミです。桂川町からは毎月約378トンもの可燃物が集積され、次々にこの桂苑で処理されています。

しかし、この可燃物の中には、新聞や雑誌、洋服など、再利用・再生利用できるものも多く含まれており、これら新聞などの紙くずやビニール類は、ゴミ焼却温度が上がりにすぎず、処理施設の傷みを加速させ

る要因にもなっています。

桂川町から出た平成17年度のゴミの総排出量は5,611トン。この中には、事業所などのゴミも含まれています。これを一人当たりで換算すると、毎月約30キロのゴミを赤ちゃんから高齢者の皆さん全員が出している計算になります。この数量は、近年横ばい傾向となっており、10年前と比較してみると約1.3倍の数量となっており、桂苑の処理能力の限界に近づいています。

▼分別されずに出されたゴミ

